

1 1 総合目標

総合目標①	健康寿命の延伸
-------	----------------

2

3 【望ましい姿】

4 高齢期に至るまでの間に心身の健康が大きく損なわれません。

5 また、たとえ病気になっても重症化や健康障害に至らず、その後も生活機能を維持し続けています。

7

8 【指標の達成状況及び評価】

指 標		指標の方向	ベースライン値 (平成 22 年)	現状値 (平成 28 年)	評価
65 歳健康寿命 (要介護 2 以上)	男性	延伸	82.02 歳	82.62 歳	A
	女性		85.14 歳	85.69 歳	

9

10 ○ 65 歳健康寿命（要介護 2 以上）は、男性で 0.60 歳、女性で 0.55 歳延伸
11 しています。〈図 25〉

12

13 ○ 同じ期間における 65 歳平均余命¹は、男性で 0.59 年、女性で 0.45 年
14 延びており、65 歳平均自立期間²（要介護 2 以上）の延びは、65 歳平均余
15 命のそれを上回っています。〈参考図 1〉

16

17 ○ これらのことを総合的に勘案すると、指標は改善傾向と言えることから、
18 評価を A と判定しました。

19

20 ○ なお、「健康日本 2 1（第二次）」で採用されている、国民生活基礎調
21 査のデータを用いて算出する健康寿命においても、都の値は延伸していま
22 すが、男女ともに全国平均を下回っています（都と国の健康寿命の比較に
23 ついては、33 ページのコラム参照）。〈参考図 2〉

24

25

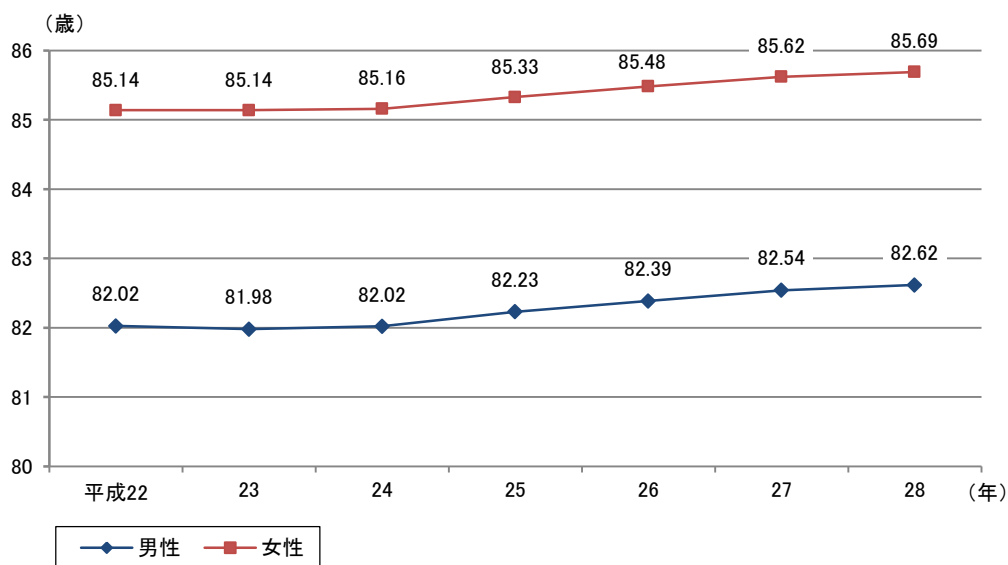
26

27

¹ 65 歳平均余命:65 歳の人が、平均してあと何年生きられるかの期待値であり、65 歳平均自立期間(年)と 65 歳平均障害期間(年)を合わせた値

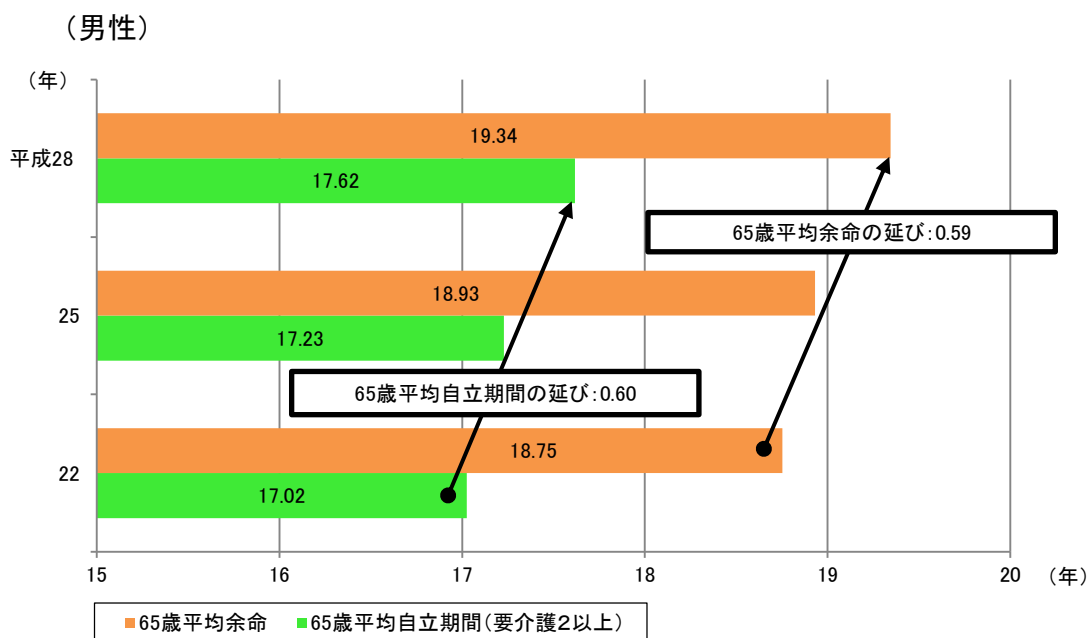
² 65 歳平均自立期間:65 歳の人が要介護(要支援)認定を受けるまでの期間の平均。健康と考える期間。

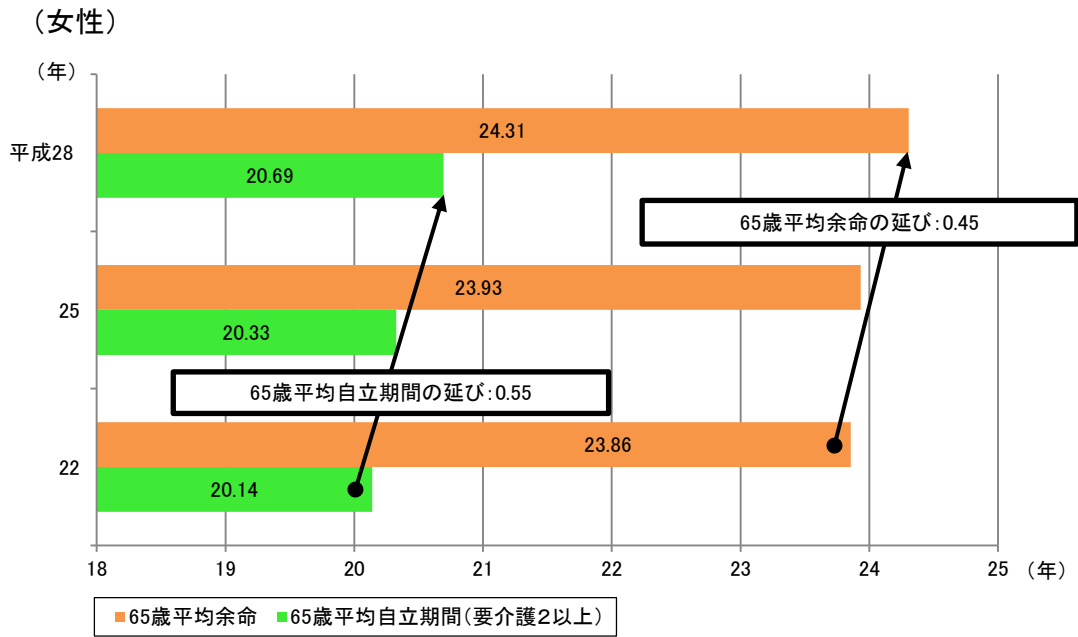
＜図 25＞ 65 歳健康寿命(要介護2以上)の推移(東京都)



資料:「65 歳健康寿命(東京保健所長会方式)」(東京都福祉保健局)

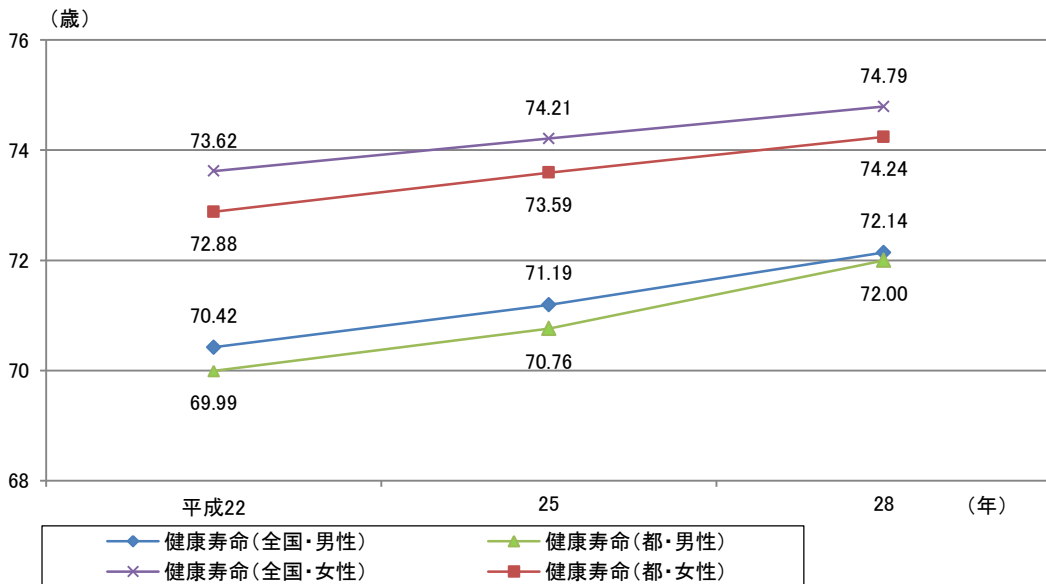
＜参考図1＞ 65 歳平均自立期間(要介護2以上)と、
65 歳平均余命の延びの比較(東京都)





資料:「65歳健康寿命(東京保健所長会方式)」(東京都福祉保健局)
 ※65歳からの年数の比較を行うため、65歳健康寿命の代わりに65歳平均自立期間を比較対象として掲載している。

<参考図2> 健康寿命の推移(東京都・全国)



資料:厚生労働科学研究費補助金
 「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用に関する研究」(厚生労働省)

Column

<都と国との「健康寿命」の比較>

国の「健康日本21（第二次）」においても「健康寿命の延伸」を総合目標にしていますが、健康寿命の算出方法は統一されていません。

その中で都は、区市町村ごとの比較ができ、毎年算出が可能という理由から、「65歳健康寿命（東京保健所長会方式）」を健康寿命の算出に用いています。

	65歳健康寿命 (東京保健所長会方式) [東京都健康推進プラン 21(第二次)]	健康寿命 [健康日本 21(第二次)]
算出方法	<p>65歳の人が必要支援・要介護認定を受けるまでの自立期間の平均に、65歳を足して算出する。</p> <p>要介護・要支援認定 (客観的データ)</p> <p>自立期間</p> <p>65歳</p> <p>+65歳</p> <p>65歳健康寿命</p>	<p>0歳の人が必要生活に制限を受けるまでの期間の平均を算出する。</p> <p>日常生活の制限 (主観的データ)</p> <p>日常生活に制限のない期間 = 健康寿命</p> <p>0歳</p>
東京都の現状値 (平成 28 年)	<p>【要介護 2 以上】 男性：82.62 歳 女性：85.69 歳</p> <p>【要支援 1 以上】 男性：81.04 歳 女性：82.56 歳</p>	<p>男性：72.00 歳 女性：74.24 歳</p>
算出に使用する データ	<p>要介護・要支援認定者数 (介護保険事業状況報告) 及び人口、死亡者数等</p>	<p>アンケートによる調査 (国民生活基礎調査) の結果 及び人口、死亡者数等</p>
算出可能な 自治体の 最小単位	区市町村	都道府県

総合目標②
健康格差の縮小

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29

【望ましい姿】

住民の生活習慣の状況や健康状態、区市町村の健康づくりへの取組状況などについて、区市町村間の違いが把握されています。

また、地域間の健康格差の縮小に向けて、社会的な健康づくりの機運醸成や環境整備が、全都的に行われることで、都民一人ひとりが、住んでいる地域にかかわらず、日常生活に必要な機能を維持できています。

【指標の達成状況及び評価】

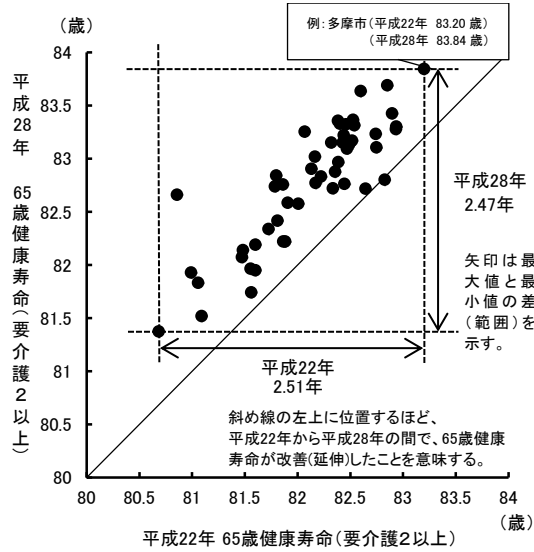
指 標		指標の方向	ベースライン値 (平成 22 年)	現状値 (平成 28 年)	評価
区市町村別 65 歳健康寿命(要介護 2 以上) の最大値と最小値の差	男性	縮小	2.51 年	2.47 年	B
	女性		1.98 年	2.05 年	

- 区市町村別の 65 歳健康寿命（要介護 2 以上）の最大値と最小値の差は、男女ともにおおむね同程度で推移しています。〈図 26〉
- また、集団のばらつきの大さを表す標準偏差³を用いて、区市町村間の 65 歳健康寿命（要介護 2 以上）の分布をみると、男女ともに顕著な変化はみられません。〈参考図 3〉
- これらのことを総合的に勘案すると、指標はおおむね不変と言えることから、評価を B と判定しました。

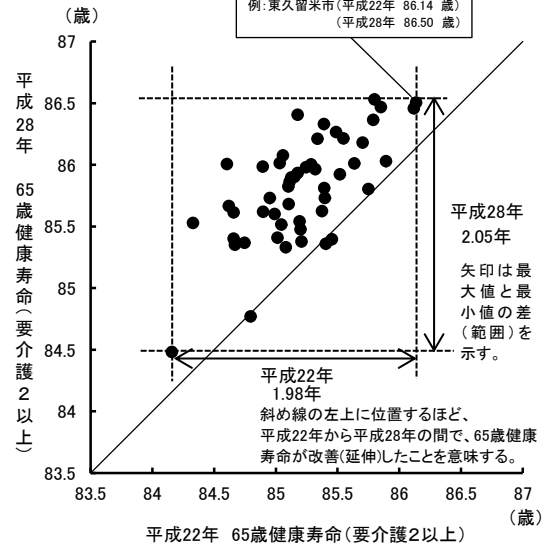
³ 標準偏差: データの散らばりの大きさを表す指標で、大きいほど、データが散らばっていることを表す。

1 <図 26>区市町村別 65 歳健康寿命(要介護2以上)の
 2 最大値と最小値の差(範囲)の平成 22 年と平成 28 年との比較(東京都)

3 (男性)



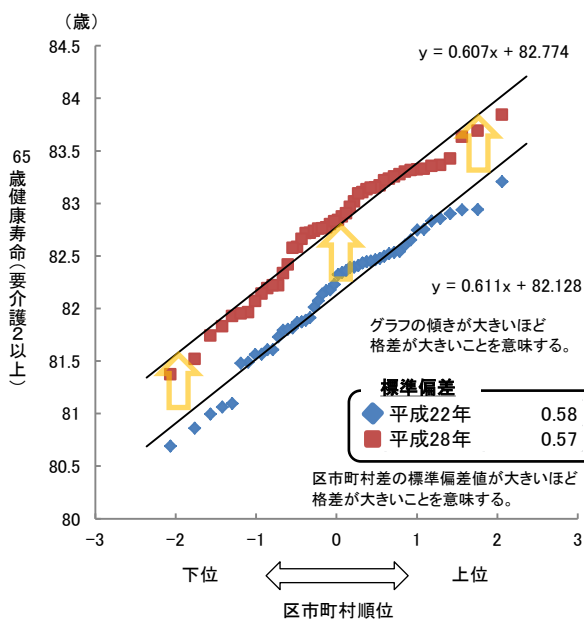
3 (女性)



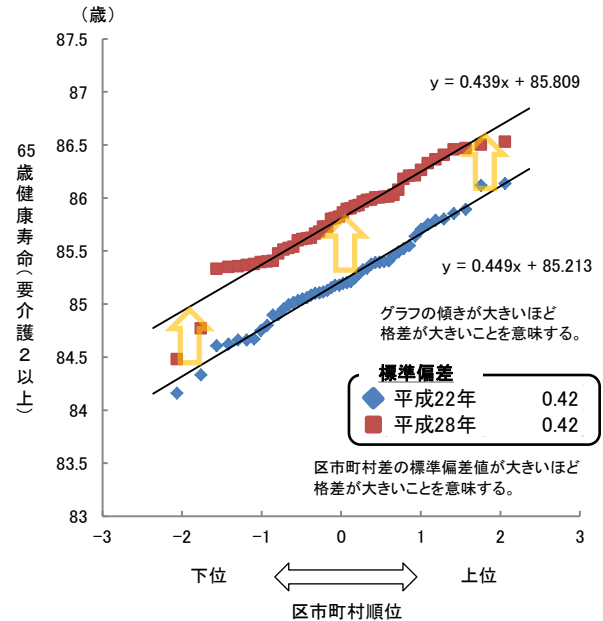
17 資料:「65 歳健康寿命(東京保健所長会方式)」(東京都福祉保健局)を基に作成
 18 ※平成 22 年は、青梅市の数値が把握できなかったため、本図において青梅市は
 19 含まれていない。

20 <参考図 3>区市町村別 65 歳健康寿命(要介護2以上)の分布の
 21 平成 22 年と平成 28 年の推移(東京都)

22 (男性)



22 (女性)



資料:「65 歳健康寿命(東京保健所長会方式)」(東京都福祉保健局)を基に作成
 ※平成 22 年は、青梅市の数値が把握できなかったため、本図において青梅市は
 含まれていない。